

こくろう秋田

春闘勝利・組織拡大に向け

3月3日、仙台法華クラブにおいて、国労東北三地本春闘総決起集会が、361名の参加で開催されました。



第一部 労働講座
テーマJR発足30年
国鉄は国民の手に返ってきたのか
講師 上岡 直見氏

テーマ論点
○分割民営の約束は守

られたのか
○地域の持続性と鉄道の役割

○分割民営30年の概観
○利用者の視点から見たサービスレベルの推移
○特に貨物・北海道

○リニア建設でJR東海は「第二の国鉄」に等について、具体的な数値などを示して丁寧な説明がありました。

まとめとして、JR発足に際して「民間と役所の悪いところを合わせた組織になる」最も重要な課題として指摘された「累積責務」のうち当初「国民負担」とされた1

国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7-2-21)
018-
832-3775

発行責任者 佐藤浩一
編集責任者 教宣部



3、8兆円は、清算事業団を経て国の一般会計に継承される過程でかえって膨張し今も18兆が解消されていかない。全国分割体制については、そもそも「中央集権的な全国一元的運営を続ける場合と比べて、より多くの鉄道が再生され、地域住民の期待に十分応じることが可能となる」と説明さ

れたにもかかわらず、利用者からみたサービスレベルは低下している。30年の社会的な背景の変化を差し引いても分割民営の枠組みに根本的な誤りがあった。三島会社や貨物会社に支援強化といった弥縫策にとどまらず、「分割民営の社会的損失」の総決算のもと再度の改革を行なうべきである。「よみがえれ国鉄」を今一度とまとめました。

第二部 春闘総決起集会



集会冒頭、主催者を代表し、本部菊池委員長から17春闘をめぐる情勢報告と組織拡大の闘いの



取り組みについて挨拶があり、佐々木東北協議会議長から震災から6年経過しての現状報告と組織拡大の取り組み、貨物の現状について挨拶がありました。次に三地本と貨物から春闘勝利に向けた決意表明を受け集会アピールを採択し、集会を閉会しました。

集会後、会場から仙台駅に向け全体で春闘勝利、賃上げで景気回復を、憲法改悪阻止、安全の切捨ては許さないぞなどのシュプレヒコールを行い多くの市民に訴えました。春闘勝利に向け団結して奮闘しましょう。